

## 舌にはどんな役目があるの

### 舌には3つの役目がある

ふつう、わたしたちは、食べ物の味をみるために、舌を使います。しかし、舌には、大きく分けて、3つの大切な役目があります。

舌は、口の中に入ってきた食べ物を動かし、かめるように歯の上へのせたり、だ液と混ぜ合わせたり、飲みこむために、おくの方へおしこんだりしています。

舌には、味蕾とよばれる味を感じるものがついていて、あまい、酸っぱい、塩からい、にがいなどの、味を感じるはたらきをしています。

舌は、ことばをつくるはたらきをしています。のどのおくにある、声帯というところで生まれた声は、舌がいろいろな形に変化して、それぞれの音をつくり出さなければ、ことばとして聞こえてこないのです。

### 舌で味がわかるのは

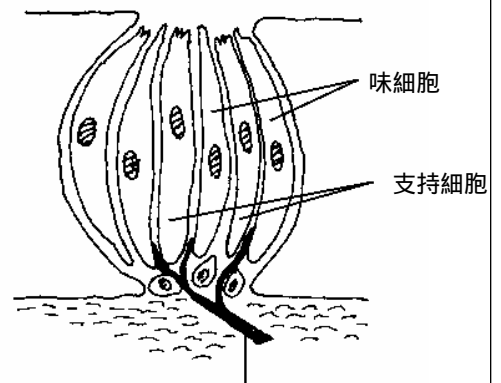
舌で味がわかるのは、舌には味覚芽または味蕾とよばれる、味を感じる装置のようなものがあるからです。

味蕾は舌のねん膜（湿ってねばねばしたうすい膜）の決まった場所にあり、穴になっています。

この中には味細胞がつまっており、ここへ脳からきた味覚神経がのびてきて、味細胞につながっています。

口に食べ物が入り、舌にある味蕾の味細胞にふれると、それが味細胞につながっている味覚神経から脳へ伝わり、わたしたちは味を感じるのです。（監修・保志 宏）

味蕾のしくみ



味覚神経

花の蕾（つぼみ）に、形が似ていることから、味蕾の名がついた。

